

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1296700022		
法人名	有限会社 かづみ		
事業所名	グループホーム 時の村17号館		
所在地	千葉県長生郡睦沢町上之郷2635-2		
自己評価作成日	令和7年2月5日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.homes.co.jp/facility/basic/f=44886/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPO共生		
所在地	千葉県習志野市東習志野3-11-15		
訪問調査日	令和7年2月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

長閑な田園地帯にグループホーム時の村17号館はあります。四季の変化を感じていただけるよう、南向きの窓からは目に優しい風景が望めます。四季折々の行事を大切に、誕生日などの大切な日を含め、利用者様と一緒に準備をし、一緒に祝い楽しんでおります。楽しく、安心して過ごせるように工夫し、家庭的な空間を入居者様と一緒に作っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人理念を毎週申し送り時に唱和し職員間で共有している。利用者の表情を観察し、沈みが見られた際には積極的に声を掛け安心環境を提供している。自立支援として見守りを基本とし、必要時に手を貸す支援を実施している。農業産業まつりや自治会祭り、歴史資料館や役場での認知症映画上映を通じ、地域文化および福祉理解を深め、家族からの外出・外泊の問い合わせには家族判断を尊重して対応している。便利には医師意見を添え、車椅子購入要望には家族購入を助言し、ドライブで公園に行き花を鑑賞する等外出支援も行っている。利用者の意向を丁寧に聴取し、認知症や痛み対策、食事支援で生き生きとした姿を引き出し、排出手支援や居室環境整備も徹底している。これらの工夫により、利用者の自立と充実した生活が実現されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「個人を尊重し安全で安心出来る、楽しく美しい生活の場を地域との連携の中で和の心を持って確立する事」と言う法人理念を掲示している。	法人の理念を週に1回申し送り時に唱和し、職員間で共有している。利用者の表情を観察し、沈んでいる様子が見られた際には積極的に声を掛け、安心できる環境を提供している。自立支援の観点から見守りを基本としつつ必要に応じて手を貸す距離を保ちながら支援を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議を通し、地域の方と情報の交換をさせて頂いています。役場や自治会主催の行事に積極的に参加しています。	農林産業まつりでは日本舞踊や太鼓演奏を楽しみ、家族の協力を得ながら参加した。自治会の祭りでは子供神輿や山車の休憩場所提供を自治会長に依頼した。歴史資料館での講演や役場での認知症関連映画の上映にも足を運び、地域の文化や福祉への理解を深める機会を設けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に貢献できるように、取り組んでいきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での助言を生かしています。	運営推進会議は年6回開催され、健康保険課や地域包括、自治会長、民生委員、家族等が参加し意見交換を行っている。産業まつりの際の歩道のアップダウンの課題や、グループホームの現状に関する議論が交わされた。介護保険制度に関する質問も有った。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	役場担当者に相談や報告を常時行っており情報を頂いています。	家族との対応が困難なケースを役場に相談し、話し合いの仲介を依頼した。その結果としてキーパーソンを変更し、対応が難しい場合には契約解除の措置を取る方針となった。また、地域包括とは定期的に空き室情報の交換を行い、円滑な受け入れ体制の構築に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員が年2回の研修を行い、身体を自由を奪う行為は行っていない。	身体拘束廃止委員会を年4回実施し、現在拘束を必要とする利用者はおらず、スピーチロックに関する動画を委員会で視聴し理解を深めている。管理者は県の研修を受講し、全体会議でフィードバック研修を実施した。外国人職員に対しては、意図せず不適切な言葉を発することがあるため、都度指導を行い、適切なケアの実践に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について、職員会議や資料を活用して虐待のないように話し合いをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	機会があれば出席させている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用申し込み時に契約書等の説明を行い、理解していただいた上で、契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会に訪れた家族に近況報告報告をしながら意見や要望を聞き反映させている。	家族からの外出・外泊に関する質問には、家族の判断を尊重し問題ないと回答している。毎月の便りでは、ADL低下や発熱時の対応について医師の意見を添えて情報提供を行っている。車椅子購入の要望には、ホームでの購入より家族が購入したほうが適切であると助言し、利用者の状況に応じた対応を行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案は、その都度聞き入れて、職員会議で話し合い反映させている。	職員会議での職員の意見や提案は適宜反映されている。歩行が困難になった利用者に対し、車椅子の使用を検討する意見が出されるなど具体的な課題に対応している。介護方法については、トイレでの介助方法や見守りの基準を統一するため職員間で共有を図っている。外国人職員が利用者ごとのADLの違いについて質問する際は、その都度指導を行い、適切なケアの提供に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が長く勤めていけるよう努めている。個々の役割はあるが、基本は全員で行うように、偏らないように配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本人や他の職員が不安に思っていることは、介助時に指導を行ったり、研修の機会を作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	系列法人の運営する施設訪問を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の意思が確認できる方は、要望に添えるよう努めている。確認出来ない方は表情から安心を得られるよう心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との話し合いで要望を聞き関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	どのように過ごすことを望んでいるかを把握し、近づけるような対応を話し合い支援をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	コミュニケーションを取りながら、利用者の立場に立った対応を実施している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に1度、写真付きのおたよりを送付し、現状や、本人の思いを伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外の馴染み方とも良い関係を築けるよう努めている。	面会は感染症対策のため1月・2月は原則中止としているが、家族の送迎により年末年始には4泊し、温暖な時期には1泊から1週間程度外泊する方がいる。ドライブを兼ねて茂原の公園へ行き、子供たちの姿に触れ桜を見ながら弁当を楽しむ機会を設けた。長南町のアジサイは駐車場で降りて鑑賞し、近隣では散歩しながら梅の花を楽しんでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	良い関係が築けるよう雰囲気づくりに心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後施設や病院に行かれた方の訪問を行なった。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや希望を把握できるように支援している。ご家族にも意向を聞き、困難な場合が多いですが、利用者本位の支援が出来るように努めている。	利用者の意向や思いを把握し、適切に対応している様子が見られる。例えば、認知症の方には何度も同じ話を初めて聞くように接することで、本人も満足している。また、痒みを感じる方に対しては対策を考えたり、旅館勤務経験のある方には食事の準備や片付けを任せることで生き生きとした姿を引き出している。このように、個々の思いや意向を尊重し、適切に対応していることが評価される。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族から意向を聞き、日常の会話の中から把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の健康管理や好みを把握し細かな変化にも気づけるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランを元に課題を話し合いケアのあり方を作成している。	ケア会議が月に一度、職員全員の参加で行われ、利用者の状態変化を議論し、現在のレベルの維持に努めている。例えば、歩行が難しくなった人にはすぐに車いす利用に切り替えず、維持するためのケアを検討する。また、家に帰りたい希望に応じ、月一回の外出や外食を家族の協力のもと実施している。さらに、廊下の手すりを使ったスクワット訓練もケアプランに組み入れ、立位が取れるような支援に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にケース記録を記入している。申し送りノートを参考に職員間の共通情報としている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々体調が変化していく中、家族や本人の思いも変わってくることを踏まえ柔軟な支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	睦沢の地域資源を把握し、会話の中に取り入れ傾聴し、住み慣れた地域で安全に生活している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の訪問診療を継続している。必要であれば他の病院へ診療情報提供書を書いてもらっている	入居後、内科に関しては月2回の訪問診療を実施し、健康管理の一元化を図っている。内科以外の診療については主治医と相談の上で通院を行い、必要に応じて診療情報提供書を発行している。また、本社から月2回の看護師訪問を受け、バイタルチェックと看護記録を行うことで、主治医と看護師との連携体制が確立されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回の訪問看護と月二回の訪問診療を受けている。随時、相談や往診に対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関とコミュニケーションをとれるようにして、退院後に備えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時、重度化や終末期における施設の方針、対応等を家族に説明し同意を得ているが、主治医からの終末期の判断時はその都度説明している。日頃から協力医療機関とは連携を図りながら施設として出来る限りの支援が行えるようにしている。	今年度の看取りは2件あり、重度化した際には主治医の指示を仰ぎながら家族の意向を踏まえ、職員全員が参加する看取り研修を実施し、個々に適した看取りを行っている。ホームでは医療行為ができないが、点滴や酸素吸入の状況チェック、褥瘡のチェック、清拭などの支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師或いは訪問診療に随時相談し、指示して頂く体制が取れている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	BCPを作成し、年2回避難訓練を行っている。	6月に夜間を想定した自主避難訓練を実施し、2月には日中に消防署立ち会いのもと居室での出火を想定した避難訓練を行い、玄関を避難場所として全利用者が参加した。また、BCPは本社で作成されたものを全体会議で説明され、周知されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人を尊重するという意識のもと、支援している。入居者様との関わり合い方やプライバシーについては職員間で共有している。	利用者を人生の先輩として常に敬い、赤ちゃん言葉や友達感覚の度を過ぎたなれ合いの会話を避けることに注意を払っている。また、職員の都合でものを考えず、利用者のペースに合わせた支援を重視し、急かさずに見守り待つことに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	傾聴に努め意向に添えるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者が各々のペースで過ごせるよう、見守っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で鏡の前に立ちみだしなみ整えたり、行きつけの美容院へ行くかたもある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の下ごしらえや片づけなど喜んで手伝ってくれる。季節ごとの特別メニューも提供し喜んで頂いている。	利用者に関与を与え、ホームでの生活において存在感を認めることを意識し、食事の手伝いをお願いしている。また、通常の食事だけでなく、時には出前を取ることもあり、最近では利用者の希望により茂原市内のマクドナルドに注文し取りに行ったこともある。個々の食事形態に違いがあるため、それぞれに合わせた調理を提供し、常食、ミキサー食、やわらかめ、刻みなど各人の食べやすい形態でメニューを作成している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	外注ではあるが栄養バランスの良い献立で召し上がっていただいている。一人一人の状態に応じた食事支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。定期的に歯科医の訪問がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各々の排泄支援を行っている。トイレで排泄出来る方は立位が取れなくても2人対応で排泄介助を行っている。	利用者が生活のリズムとして自然に排泄行為をトイレで行えるよう支援を心掛けており、そのために立位が取れるようなケアを重視している。個々の排泄状況を把握するために管理表を全職員が共有し、立位を保つためのスクワット、体操、歩行訓練を個別にケアに取り入れている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の管理を行っている。水分摂取に努め便秘に効果がありそうな事は試している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回実施している。午前の入浴はお飲まない傾向にあるので午後行っている。	入浴においては、夜の入浴を好む利用者が多いため、午後に入浴を設定している。季節に合わせてゆず湯やしょうぶ湯を提供し、職員が自宅の庭から材料を持参している。また、複数の入浴剤を用意し、利用者が選択できるようにしている。安全面にも配慮し、利用者の動きに注意して迅速に対応できる距離を保つよう心掛けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の温度、湿度を管理し、休息の声掛けをしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	二重三重にチェックをし、変化は記録に残して、職員間の共用は出来ている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各々の好みを把握し支援を行っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族にも声をかけて、町の行事や希望に応じて出かける事ある。家族やボランティアの力を借りている。どうしても外出はしない方もいる。	天気の良い日はホーム周辺を5分から10分程度散歩し、11月には地域の農林産業まつりに参加し、歴史資料館で講演を聞いた。現在、自治会の祭りで子ども神輿や山車の休憩場所としてホームの空き地を提供することを自治会長に申し出ている。季節に応じた花見では、近隣の尼ヶ台総合公園にドライブし、お弁当を持って出かけた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理の出来る方は少ない為、お金の所持はお断りしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があれば行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	手すりの設置が至るところにあり、安全に考慮している。庭などに咲いている花を花瓶に生けたりし季節を感じてもらっている。長閑な環境にあり季節を十分に感じられる。	施設内には手すりが設置され、スクワットや車いす移動など多様な使い方がされている。パート職員が自宅の庭の花を持参し、季節感あふれるリビングや玄関を演出している。リビング内では、どの椅子からもテレビが見やすい配置に工夫し、相性の良い人同士が隣になるよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビを見たり、談笑したりしやすいような空間にしています。1人になりたいときは居室に。自由に行き来しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分の必要な物を持って来たり飾ったり好きなようにレイアウトしている。一方では一人ではられない方も多くリビングで過ごされる方も多い。	居室は清潔を第一に考え、動線を保つために物をあまり置かないようにしている。家族が持参した写真を壁に貼っている利用者もいるが、居室よりもリビングで皆と過ごすことが多い。以前は畳部屋と洋室が半々であったが、車いすの利用者が増えたため、現在は2部屋を除いてすべてベッドを置いた洋室に変わっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーな造りになっており安全な環境の中で生活している。		